

Title	確率法則ノ分解問題, VIII
Author(s)	北川, 敏男
Citation	全国紙上数学談話会. 172 p.19-p.24
Issue Date	1939-01-20
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/74694">https://doi.org/10.18910/74694</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 764. 確率法則ノ分解問題, VII

北川 敏男 (阪大)

§9.  $K_p^n(L)$  = 於ケル  $L$  ノ分解問題 VI 及  
ビ VII = 於テ述ベタ安定ノ確率法則ノ概念ノ當然ナールノ  
発展トシテ Lévy ハ 半安定 (semi-stable) 確率

法則<sup>(1)</sup> トイフ概念ヲ導入シタ。茲デハコレヲ或 特殊領域  
ニ於ケル分解問題 トシテ眺メテ見ヨット思フ。

ソノタメ次ノ様ナ準備ヲスル。函数  $p(x, y)$  ハ次ノ様  
ナ三性質ヲモツトスル：

(i)  $p(x, y)$  ハ,  $x > 0, y > 0$  =テ定義セラレ、各  
変数ニ関シテ純單調増加デアアル。

(ii)  $x > 0 (y > 0)$  ナラバ  $p(x, y) > y (p(x, y) > x)$

(iii)  $p(x, y) = p(y, x)$ , 即チ對稱。

カ、ル  $p$  = 関シテ次ノ様ナ正数ノ集合ヲ導入スル：

$\mathcal{Q}(a_1, a_2; p)$  : コレハ豫メ與ヘラレタニツノ正  
数  $a_1, a_2$  並ビニ上述ノ如キ函数  $p$  = 関シテ、次ノ如ク定  
義サレル正数全体ノ集合デアアル。

$$\begin{cases} (i) & a_i \in \mathcal{Q}(a_1, a_2; p) \quad (i=1, 2) \\ (ii) & b \in \mathcal{Q}(a_1, a_2; p) \text{ ナラバ} \end{cases}$$

$$p(b, a_i) \in \mathcal{Q}(a_1, a_2; p) \quad (i=1, 2)$$

次ニ或ル任意ノ確率法則  $\mathcal{L}$  ト上述ノ正数ノ集合  $\mathcal{Q}(a_1, a_2; p)$  トニ関シテ確率法則ノ集合  $K_p^{*2}[\mathcal{L}]$  ヲ定義スル：

$K_p^{*2}[\mathcal{L}]$  : 確率法則  $\mathcal{L}, \mathcal{L}_1$  = 對應スル分布函数ヲ  
夫々  $F(x), F_1(x)$  トスル。  $F_1(x) = F(bx)$ , 但シ  
 $b \in \mathcal{Q}(a_1, a_2; p)$  トナル× ヲナ  $\mathcal{L}_1$  ノ全体ノ集合 (場  
合ニ依ツテハソノ様ナ  $F_1(x)$  全体ノ集合ト云ツテモ間違ヲ  
生ズル心配ハナイ) ナバ  $K_p^{*2}[\mathcal{L}]$  デ表ハスコトニスル。

茲ニ \* ヲツケタノハ、前回並ビ前々回  $K[\mathcal{L}]$  = 對シテ

(1) Lévy, 著: 558 Lois semi-stables (p. 204-208)

$K^*[L]$  を考へた如く homogeneous linear transformation = 線形変換を示し、又  $p$  と  $L$  とは二変数ノ函数  $p$  を基礎 = トルコトヲ示スノデアル。勿論  $a_1, a_2$  を與へて始メテ ② - 集合ハ確定スルノデアルが便宜上コレヲ書クコトハ省略シタ。

以上ノ定義カラ明カニ (VI 及ビ VII 参照)

$$(1) K_p^{*2}[L] \subset K^*[L] \subset K[L]$$

以上ノ考へヲ拡張シテ、二変数ノ函数  $p(x, y)$ 、正数ノ集合 ②  $(a_1, a_2; p)$  及ビ  $K_p^{*2}[L]$  ノ代リニ、夫々

$$(2) \begin{cases} p(x_1, x_2, \dots, x_n) & n \text{ 変数ノ函数} \\ \textcircled{2} (a_1, a_2, \dots, a_n; p) & \text{正数ノ集合} \\ K_p^{*n}[L] & \text{確率法則ノ集合} \end{cases}$$

ヲ導入スルコトガ出來ル。ソノ方法ハコゝニ繰返シ述ベル必要ハナカロウ。

サテ吾々ハ  $K_p^{*2}[L]$  = 於ケル  $L$  ノ分解問題 ト云フモノヲ考へテ見ヨウ。

$X_1, X_2$  ハ相互ニ独立ナリ且ツ共ニ同ジ  $L$  上ノ確率法則ニモツ確率変数トスル。然ルトキニ  $L$  上ノ確率法則ニモツ確率変数  $X$  ヲ適當ニトレバ

$$(3) a_1 X_1 + a_2 X_2 = p(a_1, a_2) X$$

ナル關係ガ成立ツト假定シヨウ。シカラバカナル  $L$  上ノ分布函数  $F(x)$  (或ハ特性函数  $f(t)$  デモヨイガ) ハ如何ナル形ノモノカト云フ問題ガ起ルデアロウ。

コノ問題ハ少シ考へテ見レバ容易ニ分ルヤウニ、函数  $p$ 、

正数  $a_1, a_2$  が与えられるとき  $K_p^{*2}(\mathcal{L})$  が分解可能  
 デアル様ナ  $\mathcal{L}$  ハ如何ナルモノカト云フ問題 = ナルノデアル。

同様ニシテ  $K_p^{*n}(\mathcal{L})$  = 於ケル分解問題 = 問シテハ

$$(4) \quad a_1 X_1 + a_2 X_2 + \dots + a_n X_n \\
 = \rho(a_1, a_2, \dots, a_n) X$$

ナル確率変数間ノ関係 = 依ツテ規定セラレル  $\mathcal{L}$  が問題 = ナ  
 ルデアロウ。茲ニ勿論  $X_1, X_2, \dots, X_n$  ハ相互ニ独立  
 デ且ツ、各々ハ  $X$  ト同ジク、同ジ  $\mathcal{L}$  ナル確率法則ニ従フ確  
 率変数デアルトスル事ハ言フ迄ニナイ。

VI 及ビ VII デ論ジタ  $K^*(\mathcal{L})$  = 於ケル分解問題 = 於テ  
 ハ、 $a_1, a_2$  ハ任意ノ正数ヲ動キ得ルトシテ (3) ヲ解イタノ  
 デアルガ、 $K_p^{*2}(\mathcal{L})$  デ意味スル (3) ノ  $a_1, a_2$  ハ豫メ與ヘ  
 ラレタ只一組ノ値シカ意味シナイノデアル。一般ニ  $K_p^{*n}(\mathcal{L})$   
 = 於テモ  $a_1, a_2, \dots, a_n$  ハ同様ニ與ヘラレタ只一組ニ限  
 レノデアル。

$K_p^{*n}(\mathcal{L})$  = 於ケル分解問題ハ未ダ全面的ニ解決ニ到達  
 シテ居ラナイ様デアル。

ソコデ此処ニハ、コノ問題ヘノ一ツノ 部分的ニ解答ヲ與  
 ヘルモノトシテ 半安定ニ確率法則ヲ簡單ニ述べル = 止メ  
 コウ：

特性函数ノ對數  $\psi(t)$  が或ルーツノ  $g$  ( $g \neq 0, 1$ )  
 = 對シテ

$$(5) \quad \psi(tg) = g^t \psi(t) \quad (-\infty < t < \infty)$$

ヲ満足スルトキ、カナル特性函数ヲ確率法則ニスルモノヲ

半安定ナリ トイフ。  $q > 1$  トシテモ一般性ヲ失ハナイ。ソノ  
トキ必然的ニ  $\alpha > 0$  トナル。

$$(6) \quad Q = q^\alpha$$

ト置ク。

[1] 今若シモ

$$(7) \quad Q^{-m} + Q^{-m'} = 1$$

トナル様ナ整数  $m, m'$  ガアルヲバ

$$(8) \quad \psi(tq^{-m}) + \psi(tq^{-m'}) = (Q^{-m} + Q^{-m'})\psi(t) = \psi(t)$$

トナル。即チ

$$(9) \quad q^{-m} = a_1, \quad q^{-m'} = a_2, \quad \rho(a_1, a_2) = 1$$

トナクナラバ  $\exp \psi(t) \equiv f(t)$  ナ関シテハ

$$(10) \quad f(a_1 t) f(a_2 t) = f(\rho(a_1, a_2) t)$$

トナル。サテ (10) ハ (3) ト同ジ内容ナル。

[2] 次ニ 若シモ

$$(11) \quad Q^{-m_1} + Q^{-m_2} + \dots + Q^{-m_n} = 1$$

ナル様ナ整数  $(m_1, m_2, \dots, m_n)$  ガアルバ, 全ク同様ニ  
シテ (4) ト同ジ内容ナル

$$(12) \quad f(a_1 t) f(a_2 t) \dots f(a_n t) \\ = f(\rho(a_1, a_2, \dots, a_n) t)$$

ニ到達スルコトヲ見ルノデアル。但シ茲ニ

$$(13) \quad q^{-m_i} = a_i \quad (i = 1, 2, \dots, n), \\ \rho(a_1, a_2, \dots, a_n) = 1$$

ソコデ函数方程式 (5) ヲ解クコトガ吾々ノ問題解決ノ

タメノ 一ツノ示唆 ヲ與ヘル事ニナルヲ見ル。

函数方程式(5)ノ解法: 無限=分解可能ナ確率法

則ノ概念が如何=有力ナモノデアルカ、又確率法則ノ分解ト  
イフー見代数的ナ問題が如何=深ク確率変数列ノ *Limit*  
*process* = 関係シテクルカ —— 何レモ既=屢々見タ所デ  
アルガ —— フ例示スル意味=於テ函数方程式(5)ノ解法  
(*Lévy loc. cit.*)ハ誠ニ興味深イ。今回ハ問題ノ説明  
ヲ主眼トシタシ、以下ノ議論ニ引用シナイ結果デモアルカラ、  
コゝニ紹介スルコトハ止メルコトニスル。